安藤歴史6・12　　Copyright：Takumin

縄文時代の生活の舞台
二つの話日本列島の自然環境

・縄文時代における日本列島の自然環境
気候：温暖化が進む。
旧石器時代は氷期で、氷期が終わって間氷期が始まる頃にちょうど縄文時代になる。縄文土器の出現も、暖かくなり始める頃であった。六つの時期のうち、半分くらいは旧石器時代からの過渡期的な位置づけとなっている。
　　沿岸に暖流・寒流が流れ込む。
　　対馬海流が日本海に流入。
　　→温暖で雨が多い気候。温暖湿潤気候。
＊ただし、日本列島は南北に長く、海岸も複雑、高低差が大きい。→地域ごとの差は大きい。

地形：元々地形的に若い。
　　山地・山脈・火山が多い。
安定した大陸の地形と比べると、複雑だし深い。
　　→複雑に開設された尾根と谷
　　高低差も大きい。
　　温暖化による海水面の上昇。
　　降水量が増加し、河川の土砂運搬量の増加。
　　→海岸地形、湖水・河川地形の複雑化。
狭いんだけど、大変多様性を持った地形となる。

植生：雨が多いため森林が発達。
縄文時代の植生というのは雨が多いので、植物の安定した状態が森林になる。
・照葉樹林（シイ類やカシ類など）
・暖温帯落葉広葉樹林（コナラ、クヌギ）
・冷温帯落葉広葉樹林（ブナ・ミズナラ）
・亜寒帯針葉樹林
食料となる木の実の実る樹種が多い。
気候・地形が複雑→狭い範囲でも多様な植生が見られる。

動物：
　・陸上動物　森林制の小型・中型獣が中心。多様な環境に応じて、動物相も多様になる。

・湖水・河川の動物　多種多様な魚介類。東日本ではサケ・マス類が溯上

・海の動物　複雑な海岸地形→多様な貝類・沿岸性魚類・海草類
　　暖流と寒流によって囲まれている。
→大型回遊魚を含めた魚類が豊富。東日本・北日本では海獣類も多い。

全体として、多様な植物相・動物相を持った、食糧資源の多い環境として考えられる。
こうした自然環境の中で縄文時代が展開した。生業は、採集・狩猟・漁業が中心の獲得経済。

地域ごと、時期ごとの自然条件に応じて、多様な生活のあり方が認められる。

ここまでが縄文時代の生活の舞台としての自然環境。

縄文時代の遺跡

・縄文時代の遺跡にはどんなものはあるのか？

・集落遺跡　竪穴住居跡を含む遺跡
　多くは1～数件の竪穴住居からなる遺跡。数百件の住居跡が検出されることもある。
竪穴住居跡の他に
　掘立柱建物跡等の建物跡。
　貯蔵穴・墓つちへんにまろ・集石・配石など様々な施設が複合的に存在する。
→基本的な生活の舞台
　集落遺跡のあり方を分析することで、当時の生活パターンや社会などを考えることができる。

・貝塚　人々が利用した貝の殻を捨てた場所　海草や貝殻を含んだ遺跡、これを貝塚遺跡と呼んでいる。
　　集落に付随するもの。
　　集落から離れた場所にあるもの。
　　規模は様々。きわめて大規模なものもある。

貝塚がなぜ縄文の研究で重要か？貝塚が当時の食料の情報がたくさん詰まっている。貝だけを捨てたというわけではないので、動物や植物とかの食べかすも捨てるので、骨とかが出る。なので食料に関する情報が得られる。

貝塚からは当時の食料に関わる情報が得られる。骨がよく残る。動物骨・人骨、骨や角製の道

具。

・その他の遺跡

陥穴の遺跡、土器や石器のみの遺跡など。